

不登校の中学生の回復過程における適応指導教室の支援に関する研究

A study of support of the adaptation assistance room for school refusal students in the recovery process.

平岡 和子 (Kazuko Hiraoka) 指導：菅野 純

【問題と目的】

本研究では適応指導教室が提供する援助機能という観点ではなく、通級生の視点から捉えられた適応指導教室の支援について検討する。さらにS適応指導教室の通級生の回復過程に注目し、通級生の回復や成長に寄与したと思われる要因について検討を行うことを目的とする。

研究 1：通級生の回復の状況に関する事例研究 (1)

【目的と方法】

S 教室に通級した卒業生の回復状況について検討する。かつての不適応な状態からの回復状況を現在の精神的健康度の観点から、3 種類の尺度を用いてアセスメントする。対象者：かつて S 教室に通級し現在高校在籍の女子 3 名。調査材料：①メンタルヘルス・チェックリスト②KJQ 調査用紙、およびワークブック③成長感尺度

【結果と考察】

3 名の対象者の KJQ 調査の結果では、いずれも「意欲タイプ」と分類され、「こころのエネルギー」と「社会生活の技術」について、ともに高い領域にあることが把握された。メンタルヘルス・チェックリストの結果のプロフィールから、3 名のいずれも、環境に適応的に生活できていることが示唆された。また、成長感尺度の結果から、3 名の対象者が自己の成長についての自己評定において、確信を持って回答していることが推測された。

研究 2：通級生の回復の状況に関する事例研究 (2)

【目的と方法】

卒業生と S 教室スタッフの視点から捉えられた通級生の回復状況・過程、および S 教室の支援について検討する。対象者：研究 1 と同じ対象者および S 教室スタッフ 5 名。卒業生に対し半構造化面接によるインタビューを実施した。逐語記録を作成し研究データとした。スタッフへのアンケート調査は 2 回に分け実施した。

【結果と考察】

支援したスタッフの視点から見た卒業生たちの回復状況・過程について把握することができた。そして、卒業生の語りとスタッフのコメントの両者から、S 教室の支援の機能とイメージについて把握することができた。

研究 3：通級生の回復過程と卒業生の視点から見た適応指導教室の支援

【目的と方法】

通級生の回復に寄与した要因とは何か、および、S 教室の支援の役割と意義、そして今後の支援のあり方、について検討する。研究 2 で得られたインタビュー・データを質的手法によって分析した。分析方法については、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (The Modified Grounded Approach, 木下, 2003) を参考にした。

【結果と考察】

分析ワークシートを用いて、49 個の概念と 14 個のカテゴリー、さらに 4 個の上位カテゴリーが生成された。概念とカテゴリー、および上位カテゴリー相互の関連を Figure に示した。結果として、通級生の回復のプロセスに関するモデルが得られた。S 教室における通級生に対して行われる支援において、先行研究で認められた「居場所」や「人間関係を学習する場所」のような機能と、発達促進的な意義が認められた。

【総合考察】

本研究では、S 教室の機能を、教育的・心理臨床的・発達促進的側面から、包括的かつ多角的に捉えることができた。適応指導教室の支援とは、支援を受け取る側のニーズの把握・理解を前提にして初めてその効果を期待できることが理解された。

